遊学舎武雄こども園　園だより
2025 年（令和７年）　１１月号

「１７８のこころ」

２歳児、ちゅうりっぷぐみでは、新しい家族の誕生を迎えられたご家族が３組いらっしゃいます。その「新しい命の誕生」を迎えるにあたって、お子様のうれしいような、ちょっぴりさみしいような、そんな声にならない複雑な気持ちに寄り添っていこうとされる保護者様の姿を、間近で拝見しました。

朝の登園時、泣いて「抱っこ」をせがむ我が子に、大きなおなかをかかえながら、その子の気持ちを包み込むようにギューッと抱きしめ、安心させながら愛を伝えられる姿。子どもたちも、「今日、ママは赤ちゃんの病院に行くんだよ。」「車がかわるんだよ、赤ちゃんが生まれるから。」等、保育者におしえてくれながら、その子なりに新しい家族を受け入れゆく気持ち。赤ちゃんの出産後は、園での赤ちゃんのお人形を大事に抱える姿、ミルクを飲ませる姿、優しくふれる姿に「小さな命」を祝福し、慈しんでいる心の育ちが感じられました。園への送迎は育児休暇をとられたお父さん、祖母様の協力もあり、「新しい命の誕生」をご家族全員で喜び、支え合う姿に感動していました。

これからの社会が、子育てに幸せを感じられる明るい未来になっていけるようにと願いつつ…。子どものそばにいる大人として何が出来るのかと、問い続けていきたいと思ってます。

人は自己決定を通して、自分の存在が認められるという感覚を知り、誰かのせいにすることがなくなると言われています。一方で、人が決めた世界に生きることは一見楽なことではありますが、本質的な問いを持つことを妨げ、自分自身の存在に疑問を持ちかねません。そこで園では０歳児の頃から「あなたはどうしたい？」「～していいですか」と尋ねられ、自己決定を重ねる経験を大切にしています。０歳児から自分の意志をはっきりと表す子どもたちの姿を見るたびに、子どもだからこれくらいしかできないだろう、という限界や制限を設けるのはいつも大人だなぁと反省させられます。

そして、３、４、５歳児の子どもたちは自己決定からもう一つ進んだ「自分たちの生活を自分たちで決めること」を大切にするための対話の時間も持っています。自己決定に基づく意見を発信し、他者の想いを受け止め、折り合いをつけ、新しい考えを生み出す。そして自分たちが考えたことや自分の想いを受け止めてもらい、日々の生活に反映してもらえることが、自分という存在が在る喜びにつながるのではないでしょうか。

どんな競技をしたいのか、どんな言葉を話すのか、どんな入場や退場をするのかという対話を重ね実現した The One in the Garden。さくら組さんの The One in the Garden では、小さかった姿を思い出し、何とも言えない気持ちになりました。

ついこの前、寝返りができるようになったのに。おしゃべりを始めたのに。歩き始めたのに。ママと呼んでくれたのに･･･できることが１つずつ増えていく喜びと、そんなに急いで大きくならないでいいよ、という寂しさの入り混じった感情。そしてあんなに小さかった我が子が、いつの間にか、年下の子どもたちにとっての憧れとなり、巣立っていく日に確実に向かっているという喜び。

私たちは、そんなお家の方の喜びと寂しさの入り混じる想いを軸に、将来、子どもたちが誰かの設けた限界や制限のなかで息苦しくなったとき、「自分にはこれがあるから大丈夫」と自己決定し、選択しながら、自分が自分であることを誇りに思うことができる人を１人でも多く育てたいと思います。